

No.1	事業の名称	イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現 (徳島東部地域の市町村との共同計画)
評価		意見
B	KPI達成には至っていないが、コロナ感染症の影響を受けてのことであり、それでも令和5年度は実績が伸びており、特に宿泊者数では今後に期待が持てる。	
B	KPIはいずれも目標には届いていないが、宿泊者数・観光コンテンツ造成数ともに年々増加している点は評価したい。ただ、「阿波おどり」という有名かつ大きなコンテンツがあるがゆえに、新しくシティブランドの核となるコンテンツが誕生しにくい状況ともいえる。来年の万博を観光活性化の起爆剤として活用できるよう、今後のシティドレッシング等での気運醸成を期待したい。	
B	本事業KPIの実績値は伸び悩んでいるものの、事業開始時点から令和5年に至るまで宿泊者数・観光コンテンツ造成数は増加傾向で推移し、県下観光の回復が見受けられる。また観光コンテンツ造成については、2025年に徳島とアクセスのよい大阪にて万博が開催される予定であり、外国人観光客の誘致など今後の盛り上がり期待される。観光客やコンパニョンの有無が、県内の飲食・ホテルなどの業況にも影響を及ぼしており、既存企業にも重要な取り組みであると思われる。	
B	いずれのKPIも実績値が目標値に届いていない。新型コロナウイルス感染症による各方面への影響が推察される。総合的にみてB評価とした。なお、2025 大阪・関西万博は一過性のものであり、中長期的視野による観光政策の展開が求められる。	
B	本事業のKPIは、目標達成まではいかないまでも、宿泊者数においても、観光コンテンツ造成数においても、3年間少しずつ増加している。コロナ禍も落ち着き、来年は大阪・関西万博の開催も予定されているので、観光客増加に向けて早急に対策を行ってほしい。	
B	目標値には届いていないが、コロナ明けの令和5年度の実績は確実に上がっている(1.35倍)。ただし事業の効果ではなく、コロナの反動の影響が大きいとも考えられる。例えば他の地方都市(高松市、松山市、高知市)の宿泊客数の増減率と比較することで事業の効果を正しく評価できるのではないかと考える。	
B	本取組のKPIは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実績値が伸び悩み最終年度までに達成できるかどうか分からない状況にあるものの、昨年度は、数値が伸び、取組自体は着実に推進できているため、KPI達成に一定程度有効であったと考えられる。ただ、阿波おどり以外の観光資源のアピールが特に徳島市については少ないと感じられる。旅行先として選ばれるには、もう少し各コンテンツの掘り下げが必要ではないかと考える。	
B	これだけでは効果が薄く、DMO同士の連携で、祖谷、美馬、鳴門、徳島、日和佐といった回遊型の観光をするための「足」の改善など、県内全体の観光コンテンツの連携を強めるべきではないかと考える。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.2	事業の名称	「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業
評価	意見	
A	令和4年から目標を少しずつ上げているが、その目標に対してKPIを達成しており実績が上がっている。令和6年も更に推進して行って欲しい。	
A	KPIは達成できており、一定の成果を上げたと思う。特に「ふるさとワーキングホリデー事業」については注目度も高く、関係人口創出の要因となっている。観光とワーク体験のメニュー充実のために、ワークを提供頂ける事業者との連携支援を強めて頂きたい。	
A	本事業のKPIは目標値を上回って推移している。また、各指標は事業開始前と比較して向上しており、本事業はKPI達成に有効であったと思われる。取組は全体的に順調に推移しており、関係人口の増加・若年層に対するアプローチなど徳島においても課題である人口減少への対策とも重なる。一方で、創業促進事業においては、他の取組と比較するとKPIが低調で、休止中のセミナーの再開や創業支援者の拡充などの対応により、よりよい効果が求められると考える。	
A	いずれのKPIも、実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	本事業のKPIは、目標達成ができています。今後も就業・創業促進に取り組んでいただきたい。女性や若者が活躍するためには、多様な働き方ができる職場環境の推進にも力を入れていただきたい。また、アクティブシニアが活躍できる仕事づくりも推進していただきたい。	
A	どのKPIも目標を達成している。	
A	本事業のKPIは、全体的に目標値を上回って達成できており、取組の成果がでていることが見受けられ、KPI達成に有効であったと言える。取組は全体的に順調に進捗しており、特に新規就業・創業者数は毎年目標を上回り、交付金事業の目的に合致した事業であると考えられる。今後は点としての成果を、面として市の活性化が感じられるように広げていただきたい。	
B	あくまで「私見」であるが、居住人口をKPIにする「時期」は終わったように思う。関係人口の確保の政策を強く推進すべきである。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.3	事業の名称	伝統文化と公民連携で推進！SDGs未来都市とくしま実現事業
評価		意見
A		SDGsと阿波おどりの組み合わせにおいてもKPIが達成できており一定の成果を上げていると考えられる。令和6年度の阿波おどりが4日間開催された時の値に期待したい。
A		KPIは達成できているものの、指標の「表現」が曖昧である。例えば、「地域の伝統文化の持続可能性に貢献する市民」は、ボランティアの数だけではない。阿波おどりの視点から地域の持続可能性を考えることは大切だが、それを量的測定することは難しい。同様に「経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらすモデル事業」という表現も包含する意味はとても広く、これが学生ボランティアチームの清掃活動のみを指すのだとすると、事業名はもう少し具体性がある方が望ましい。
A		本事業のKPIは目標値以上の実績値となっている。各指標とも事業開始年度のKPIは順調なスタートである。また各取組は、伝統文化である阿波おどりの振興とダイバーシティ推進を目的とし、効果がみられている。特にSOGIE啓発推進事業において電話相談窓口の設置は、性の悩みなど身近な人には相談しにくいとの声もあると思われるので、とても有用であると感じる。また今年の阿波おどりの振興事業については、5日間の開催や連での踊りの実施など、人出のにぎわいが期待される。
A		いずれのKPIも、実績値が目標値に達しておりA評価とした。
A		どのKPIも目標を達成している。
A		阿波踊りは徳島市民の財産であるため、ボランティアなどの市民の協力も目標を上回り、KPIが達成できた。この先人からの大きな遺産を有効活用していくことが、徳島市の活性化の大きな柱の1つとなると思う。行政と市民が、阿波踊りのスムーズな運営に足並みをそろえ、楽しい気分を発信していくことが大切だと考える。
A		万博との連携は慎重に考えなければならないように思う。
B		本事業のKPIは、目標達成ができていますが、阿波おどりはもちろん他の伝統文化の継承事業についても力を注いでいただきたい。また、阿波おどりにについては、夏の4日間に限らず、年間を通して徳島の強みとして生かし活性化に貢献できる事業を計画してほしい。

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.4	事業の名称	2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業 (県との共同計画)
評価		意見
B	売り上げの拡大等に対する取組補助の効果が見られたが、支援件数が目標にとどかなかった要因をしっかりと検証し、今後につなげて欲しい。	
B	「販路拡大に効果があった」と回答した事業者が100%であることは評価したいが、EC参入支援件数は目標は6割に届いていない。その要因を「広報不足」としているが、推し進めたい支援事業に関しては、プッシュ型の広報ではなく、強い引力をもって「釣り上げてくる」広報手法が必要ではないか。	
B	本事業のKPIは一部目標達成に遅れがみられるものの、概ね順調に推移している。取組別では、取組の補助を受けたすべての業者が「販路拡大に効果があった」と回答しており、有用であると思われる。一方で、支援件数は芳しくなく、要因として広報活動が挙げられている。本事業が広く周知されれば、業種転換の機会提供や、徳島市の企業体力の向上などの効果も想定される。今後人手不足の加速が予想されることから、DXの推進は重要であると考えられる。	
B	2つのKPIのうち、「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合」は目標を達成しているが、「本事業による支援件数」は目標値に届いていない。ただし、後者は前年度より実績値に進捗がみられることから、B評価とした。なお、後者のKPIが未達成だった原因が、広報活動のあり方以外にないかどうか、検証の余地はあると思われる。	
B	事業者へのデジタル技術を活用した販路開拓支援事業は、多くの事業者が効果があったと回答している。しかし、支援件数については未達成である。今後、効果的な広報を行い、支援事業者を増やしていただきたい。	
B	支援件数が目標の50%程度である。支援を受けた事業者の回答から、効果があることは確実なのであるから、具体的事例(実績)を材料に広報を行い、支援事業者の増加を達成すると良いと考える。	
B	「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合が伸びていることは、取り組みの成果で出ていて、KPIの達成に有効であったと考えられる。しかし、実際の支援件数が伸び悩んでおり、広報等に課題があるのか、支援の内容や方法に課題があるのか、要因についての検討が必要だと考える。	
C	指導だけでなく、直接的な支援「ハード・ソフト」の補助事業にする必要性を検討すべきである。中小企業の海外進出は、海外市場の動向分析を支援するツールが必要(海外市場も縮小傾向にある)。また為替動向が変化しても安定した収益が得るような仕組みの確立が求められる。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.5	事業の名称	3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム (県等との共同計画)
評 価		意 見
A	Fun!Fun!とくしまのPビュー数が伸びていることは、大変評価できる。製作した課内の努力が見られ、今後更に魅力のあるP製作に期待する。	
A	観光webサイトのビュー数が目標を大きく上回っていることは評価したい。訪問意向は、まず認知度と情報接触度の向上が入り口となる。「その地域に関心をもって検索する」ためのビュー数が増えていることには期待したいが、「検索」した次の段階として「行動(訪問や購入)」に移す数が増えなければ経済的効果は低い。検索から行動、さらにはその情報を「共有」したくなるようなサイトからの発信やプロモーション活動を期待したい。	
A	本事業のKPIは計画以上の実績値となっている。徳島市公式観光サイトには多くのアクセスがあり、徳島市の観光情報が広く発信されたものと思われる。公式観光サイト内には、徳島の旅スポット・食・イベント情報などが写真・映像で見ることができる。特に若年層は旅行先を選ぶ際に、主に写真や映像情報を活用しており、本事業は、効果的なアプローチであると感じる。	
A	KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	徳島市公式観光ウェブサイトのページビュー数が、目標を上回る実績値となり、KPIを達成した。今後は、関西・大阪万博によるインバウンド増加を見据えて、さらなる徳島の魅力発信を行っていただきたい。	
A	目標値を大きく超えている。閲覧者の情報があると更なる事業効果を望めるのではないかと考える。情報発信だけでなく、それに対する反応や閲覧者の要望なども収集・分析することが重要であると考えます。	
A	本事業のKPIは、全体的に目標値を上回って達成できており、取組の成果がでていことが見受けられ、KPI達成に有効であったと言える。取組は全体的に順調に進捗しており、KPIは目標を大きく上回っている。今後はさらに来年の関西大阪万博を意識して、国内および海外からの来訪者に魅力を感じてもらえるようなコンテンツを発信してもらいたい。まだまだ、掘り起しの余地、伸びしろは大きいのではないかと考える。	
A	宿泊者数にどこまでこだわるか、ここは検討すべきである。近県に宿泊し、遊びに来てもらって楽しんで徳島を知って(お金をつかって)もらう設計を考えるべき時期にきている。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.6	事業の名称	「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業 (県等との共同計画)
評 価		意 見
A	積極的な情報発信があったということで功を奏したと思われる。SDGsは世界的に進められている事業でTVや新聞でも取り上げられているので、早期に認知度を上げなければならない。	
A	本事業の実績値は目標を上回って推移している。また各取組においても、目標値以上の実績値となっている。公民連携でのSDGs推進へ向けた活動であり、取組の成果が見受けられKPI達成に有効である。近年、持続可能性への取り組みはますます関心が高まっており、これらの推進は住民の満足度を高めるとともに、観光資源など地域の特色にもなり得る。今後も継続した活動が求められる。	
A	KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	これも「息の長い」取り組みが必要であり、だれもが認めざるをえない「SDGs」の考え方の「普及」を推進すること。	
B	「市民のSDG認知度」が向上していることは喜ばしく重要なことではあるが、これが徳島市におけるカーボンニュートラル実現を測る指標とは言い難い。事業者部門、家庭部門、運輸部門等、分野別に脱炭素に向けた目標値の設定が必要だと考える。	
B	市民のSDGs認知度は、目標を超える実績値となりKPIを達成している。さらに、徳島がSDGs先進地域として、まちの魅力や強みとなるように、引き続き情報発信を続けてほしい。	
B	認知度とは具体的に何を指すのか。	
B	本事業のKPIはほぼ達成できているが、SDGs未来都市の具体的なイメージはなかなかつかめない。今後はさらに具体的な青写真を提示して、徳島市が目指すサステナブルな地域の全体像はどういうものなのか情報発信を行っていただきたい。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.7	事業の名称	社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略 (県等との共同計画)
評価		意見
A		目標値に着実に実績が達成されている。毎年成果を上げていくのは大変だと思われるが、しっかりと取り組んで推進してほしい。
A		商品開発数は目標を達成している。「市場の規格外となった農産物の活用」との表現があるが、サイズや形状によって「規格」を決める現状の改善についても、行政として積極的な関与が必要である。「規格外」という言葉をなくし、再考することが本来のSDGsへの取り組みである。
A		本事業のKPIは、各年目標達成し順調に推移している。令和5年も事業活用が1件あり、新規商品開発が行われた。県内の1次産業は減少傾向にあるなかで、農林漁業者の6次産業化は付加価値の向上や雇用の創出などの効果が挙げられる。一方で設備投資や専門知識などのハードルもあり、本事業はこの問題に対する有用な支援であるといえる。また産業の活性化は、国内生産量の確保にもつながり、長期的な支援・支援先の拡充が目指されるとよいと考える。
A		KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。
A		本事業のKPIは、目標件数通りの実績を達成している。積極的な広報活動により農産物の製品開発は特に成果があったようだ。今後は、林漁業の商品開発と販路開拓にも力を注いで貢献していただきたい。
A		目標値を達成している。
A		今後は「売れ筋商品」に成長しているか、商品の「広告宣伝」の効果を測定することがのぞましい。
B		本事業の目標のKPIはほぼ達成できており、取り組みの成果が出ていると考えられる。1次産業が強い徳島においては、6次産業化による商品開発や販路開拓支援に対する取り組みは非常に重要な取り組みの1つなので、さらなる取り組みを期待したい。

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.8	事業の名称	LINEによる行政サービス拡張事業
評価		意見
A		情報が積極的に配信されており、成果が上がっている。今後もよりよいサービスの改善を図れるよう期待する。
A		LINE機能の拡張やチャットボットの導入などによる情報発信は、利用者の利便性の向上と計画的な情報発信に寄与している。
A		本事業のKPIは、目標以上に達成できている。公式アカウントおともだち数も目標を達成しており、セグメントの配信回数においても目標を大きく上回る回数を達成した。チャットボットの利用回数においては、さらに大きな成果となって、市民生活の利便性向上に役立っている。今後さらに利用者も増えるであろうから、市民が必要としている情報の発信に努めていただきたい。
A		目標値を大きく超えている。市民からの投稿情報は真偽や精度が問題となるが、LINEの双方向性を活かして欲しい。
A		発信については、非常に活発に行われ、KPIは目標値をはるかに上回るものもみられるので、取り組みは有効なものであったと考えられる。特にチャットボットの利用回数の伸びは素晴らしく、これにより行政の効率化も図られているモノと考える。
B		本事業のKPIは、運用見送りなどの項目を除き目標を上回っている。特にチャットボットのサービスの利用が大きく伸びており、市民の利便性向上とともに、業務負担縮小にも貢献していると思われる。またLINEという身近なツールでの発信は、非常時においても、広域に迅速な情報提供が可能であるとの利点も挙げられる。
B		各KPIのうち、実績値が目標値に届いていないものがあり、B評価とした。
B		申し訳ありませんが「LINE」ユーザーでないので、取得できる評価指標がよくわかりません。取得できるのであれば、「お友達数」より「資料ダウンロード数」(のようなもの)が適切ではないか。

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.9	事業の名称	スマート農業推進支援事業
評 価		意 見
B		スマート農業への取り組みにおいて目標値を達成できなかった。研修会への参加者は、目標値以下だったが、満足度は目標値を上回ったため、今後は周知に力をいれてほしい。
B		研修会参加者は増えているとのことだが、実際の機器貸出に結び付いていないことが課題である。研修会の開催回数を増やす等の対策が必要ではないか。
B		本事業のKPIは目標値に届かない項目も多くあるものの、前年比で研修参加者が倍増、参加者満足度は目標を上回るなど、スマート農業への理解促進に一定の効果がみられる。スマート農業は、農業従事者の減少や高齢化のなかでも、生産性の高い農業の確立を目指し、国の政策としても推進されている。農林業センサス(2020)によると、徳島における販売農家は2015年→2020年の5年間で△22%と、減少が顕著である。徳島の農業の保持のためにも、より一層の支援強化をお願いしたい。
B		4つのKPIのうち、実績値が目標値に届いたものは1つのみであるが、令和5年度から設定された指標も含まれており、総合的にみてB評価とした。
B		本事業のKPIは、ほとんどの指標において目標が達成できていない。機器の貸し出しにおいても、研修会の参加人数においても、対象者への周知が不足していたようだ。スマート農業推進の支援は、重要な課題だと思うので、多くの農業の方に広報して本事業を利用してもらえるように働きかけていただきたい。
B		広報・研修会の拡充が重要だと考える。
B		農業の担い手不足の解消という意味で大切な事業だと思うが、機器の貸し出し件数が伸び悩んでいるのが残念である。スマート農業機器とは一体どのようなもので、どんなメリットがあるのか、使い方は簡単なのか等々、必要な情報が発信できていないのではないかと。既存の農家だけでなく、都会からの新規就農希望者などにも積極的にイベント等の情報を発信すればよいのではないかと。
B		今後、機器の貸出状況、その機器を利用した作物の種類増加、品質の向上などを成果としてモニターするのがのぞましい。